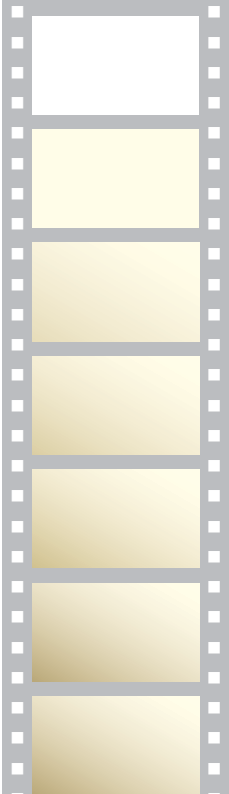
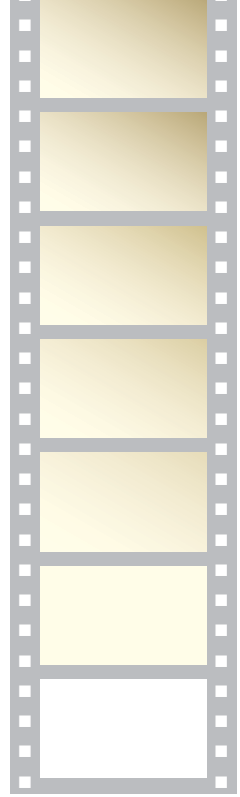


伸^ノさんのシネマトーク

鈴木 伸夫



第六十二回 「アナウンサーへの道」②

何の「ダジャレ」だったのか、思い出そうとしても記憶の中から、出て来ないのです。

しかし、声を出して笑ったのは確かに三人でした。ぼくとまだ高校生の女の子の二人で、あと一人が思い出せません。でも講師の言った「いま笑った三人は、アナウンサーになれる」。いまでもその張りつめた声は覚えています。このひと言がどんなにぼくを勇気づけ支えてくれたことか……。

講習は6日間でしたが、日曜日が一日入っていたため、7日間の期間となりました。女子高生のF子さんは、ぼくが仙台からやって来ていることに興味がありました。ようで、

「日曜日に放送局の見学しない？ 知っている人がいるから……。」
と誘ってくれたのです。F子さんはよく話をするかわいい子で、実家は北千住で「かつお節問屋」をやっていると行ってました。

放送局のスタジオ見学はぼくとF子さん二人だけでなく、他のメンバーも何人かいました。

彼女が案内してくれたのは、「TBS」。それに案内役は「パック・イン・ミュージック」（以下パックイン）パーソナリティーの林美雄さんだったのです。どういう関係か聞きませんでした。高校の先輩・後輩の関係のようでした。

講習会が終わってF子さんとお会いすることはありませんでした。数年後もらった年賀状に「林F子」と書いてあったので、二人が結婚したことがわかり驚きました。

林美雄さんはもう故人ですが、彼についてご紹介します。

林アナウンサーの声は、バリトンのとても響く良い声でぼくは好きでした。彼は都立第三商業高等学校在学中、NHK全国高等学校放送コンテストのアナウンス部門で一位に輝きました。高校卒業後サラリーマンになりますが、アナウンサーになるためには大卒でなければならぬことから、入社した会社を退社し、早大法学部に入學、卒業後TBSへ入社しました。同期入社に「久米宏氏」がいます。

林アナウンサーが担当した「パックイン」は、曜日や放送時間は変わりましたが、



▲「下落合」は、当時
林アナウンサーが住
んでいた場所
「ミドリぶた」は、
番組のニックネーム

独身時代のぼくはタイムマーで録音して聞いていました。ニュースのパロディや映画（とくに日本映画）の紹介。ニューミュージック、演劇の感想など、他局のパーソ

ナリティーが取り上げない話題を取り上げていたからです。

写真に写っている本の出版パーティーと、東京での映画試写会の日程がうまく合いパーティーに出席すると、芸能人としてまだブレイクする前の「タモリ」や、俳優の「原田芳雄さん」がギターで『りんご追分』を歌い、「荒井由美（松任谷由美）さん」も歌うなど、幅広い人脈に驚きました。

一度、林さんのお宅へ泊めてもらったことがあります、お子さんがまだ赤ちゃんの頃

で、ご主人もえばっていました。そんな個人的なお付き合いもさせて頂きました。

林家に宿泊の翌日、TBSに用事のあるぼくを林さんは案内してくれました。その時、電車のなかで林さんに聞いたことがあります。

「林さん！TBSのアナウンサー試験は審査員は誰れがやり、どのようにして実施するのですか？」

「それはねえ鈴木さん、TBSの全アナウンサーが審査員なんですよ。アナウンサーが持っている声、キャラクターなど、ひとつの放送局に同じアナウンサーが二人いても魅力がないじゃないですか！。だから第一次の音声試験は、ぼく達アナウンサー全員でやっています。」

林さんは電車のつり革につかまって、車窓から遠くを見て自分のことを思い出しながら、バリトンの声で言いました。それを聞いたぼくは、すでにRABでアナウンサーとして働いていましたが、「もっと精進しなければ他人トに追い抜かれる」と思
い林・ア・ナ・ウ・ン・サ・ーの横顔を見つめたのです。

(続)

【追記】

林さんといえば、映画を愛した人でも知られていました。特に、当時レコードで発売されなかつた邦画のサウンドトラックをテープに収録し、番組のなかで放送しました。何回も放送することにより、人気が出て、レコードが発売されたケースもあります。「八月の濡れた砂」は、林さんが「バックイン」担当の明け番の時、帰宅途中で寄つた映画館で観て、監督や出演者などを生放送のゲストとして招いたのが、ヒットのきっかけとなりました。

「八月の濡れた砂」

71年製作 日活

監督 藤田敏八

出演 広瀬昌助、村野武範ほか

音楽 むつひろし

主題歌「八月の濡れた砂」

作曲 むつひろし、作詞 吉岡オサム

▼映画「八月の濡れた砂」
レーザーディスクジャケット



歌 石川セリ

湘南の海を舞台に、若者のやり場のないエネルギーを、哀感こめて描いた作品でした。日活がロマンポルノへ移行する前のダイニチ映配（大映と日活の作品を共同配給する会社）最後の配給作品でした。

また、林さんは番組のなかで、この曲を何時頃に放送すれば効果的かを考えた人でした。

大人のおとぎ話「フォロー・ミー」。新婚の妻が日中何をしているのか気になった夫が探偵を雇い、妻の行動調査をするというストーリーです。映画の音楽を担当したのが、「007」のテーマ（ジェームズ・ボンドのテーマ作曲はモンティ・ノーマン）を作曲したジョン・バリーで、「007」とは全く違う曲想のメロディーを書いています。

その主題歌を林さんは「パックイン」のエンディングに使いました。映画では、探偵が依頼を受けた新妻をのんびり追跡するシーンに流れる曲ですが、「パックイン」の終了は早朝。その早朝にふさわしく、朝の冷たい新鮮な空気が部屋のなかに

入って来て、目を覚ましてくれるようなさわやかな曲でした。

「フォロー・ミー」

72年製作・アメリカ、イギリス

監督 キャロル・リード

出演 ミア・ファロー、トポルほか。

音楽 ジョン・バリ

原作名 THE PUBLIC EVE

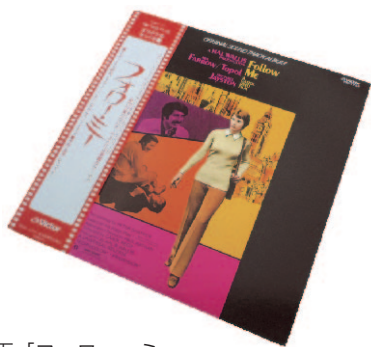
原題名 FOLLOW ME

主題歌「FOLLOW FOLLOW」

作曲 ジョン・バリ、作詞 ドン・ブラック

72年夏、スペインのサンセバスチャン映画祭で、主演女優賞（ミア・ファロー）
受賞・主演男優賞（トポル）受賞。

伸



▶映画「フォロー・ミー」
オリジナル・サントラ盤

平成25年4月